

朝日新聞 1986年10月2日

日韓トンネル起工

九州と韓国間に「日韓トンネル」を掘る計画を進めている国際ハイウェイ建設事業団（東京・新宿、梶原玄太郎理事長）は二日、佐賀県東松浦郡西町

名護屋でトンネル調査斜坑の起工式をした。この斜坑は、地質や断層、破砕帯などを調べ、トンネルの建設が可能かどうかを探るもので、同事業団は「トンネル建設に向けての本格的な第一歩」といっている。しかし、総工費がさうと九兆円にものぼるとみられるほか、この計画の提唱者が、大学での原理運動や合同結婚式などで時折、話題となる「世界基督教統一神霊協会」の文鮮明教祖だけに、「実現不可能な夢物語」「宗教組織の宣伝活動の一つ」とみる向きもある。